

# **三菱ケミカルグループ株式会社**

2026 年 3 月期 本決算説明会

2026 年 5 月 13 日

## イベント概要

---

|          |                                              |      |         |
|----------|----------------------------------------------|------|---------|
| [企業名]    | 三菱ケミカルグループ株式会社                               |      |         |
| [企業 ID]  | 4188                                         |      |         |
| [イベント言語] | JPN                                          |      |         |
| [イベント種類] | 決算説明会                                        |      |         |
| [イベント名]  | 2026 年 3 月期 本決算説明会                           |      |         |
| [決算期]    | 2026 年度 通期                                   |      |         |
| [日程]     | 2026 年 5 月 13 日                              |      |         |
| [ページ数]   | 32                                           |      |         |
| [時間]     | 16:30 – 17:33<br>(合計：63 分、登壇：29 分、質疑応答：34 分) |      |         |
| [開催場所]   | インターネット配信                                    |      |         |
| [会場面積]   |                                              |      |         |
| [出席人数]   |                                              |      |         |
| [登壇者]    | 2 名                                          |      |         |
|          | 取締役 代表執行役社長                                  | 筑本 学 | (以下、筑本) |
|          | 執行役員 最高財務責任者                                 | 木田 稔 | (以下、木田) |

|           |                   |       |
|-----------|-------------------|-------|
| [アナリスト名]* | モルガン・スタンレーMUFG 証券 | 渡部 貴人 |
|           | SMBC 日興証券         | 宮本 剛  |
|           | 野村證券              | 岡寄 茂樹 |
|           | UBS 証券            | 大村 俊太 |
|           | JP モルガン証券         | 仲田 育弘 |

## 登壇

---

**筑本：**皆さん、こんにちは。三菱ケミカルグループ、社長の筑本です。本日は決算説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。後ほど CFO の木田より詳しくご説明しますが、25 年度の決算は、コア営業利益は前期比 2%減の 2,250 億円でしたが、1,949 億円という多額の非経常項目を計上したことにより、営業利益は前期比 79%減の 301 億円、親会社の所有者に帰属する当期利益は、前期比 74%減の 118 億円と非常に厳しい結果となりました。

しかしながら、これは当社が将来の成長に向けて、25 年度までにやるべきことをやり切るという強い意志の下、コークス・炭素材事業からの撤退、西日本におけるエチレンの再編、MMA の海外合併の解消、希望退職者の募集、いわゆるネクストステージ支援プログラムなど、持続的な成長に必要な構造改革を決断した結果であると認識しております。構造改革に伴う大型の減損などは、25 年度中におおむね完了しております。

一方で、当社の成長ドライバーであるソアノール事業において、英国のプラント建設計画の見直しに伴い、約 300 億円という多額の減損を計上したこと、25 年度業績が従来予想を大きく下回ったことは、極めて遺憾であると経営として重く受け止めております。株主の皆様をはじめ、ステークホルダーの皆様にご心配、ご迷惑をおかけしましたことを心よりお詫び申し上げます。

本件は、当社としても特殊性の高い案件であり、現時点において、他の投資案件で同様の減損リスクは顕在化しておりません。今後は、投資計画は予定どおり進捗するよう経営として、これまで以上に厳格な管理とモニタリングを行ってまいります。また、本件に関し、株主の皆様にお約束した規律ある事業運営の 3 原則を守れなかったことに対するけじめが必要だと判断し、社長である私、筑本とソアノール事業を所管する常務の江川が月額報酬の 20%を 6 カ月間、自主返納することを決定いたしました。

26 年度の当社は、引き続き構造改革とコスト削減に取り組みながら、スペシャリティマテリアルズにおける大きな飛躍を見込んでおります。欧州ドイツでは、ポリエステルフィルム事業で大型投資が稼働を開始し、収益増への期待が高まっています。

半導体レンジ事業においても、合成石英や半導体精密洗浄、負極材等の既存事業の継続拡大と新規案件の飛躍が見込まれています。また、炭素繊維事業では、既存のモビリティ向けのみならず、新しいタイプのモビリティであるロボタクシー向けのビジネスが本格的に稼働します。

加えて、航空・宇宙産業向けの取組が実を結んできています。こうしたスペシャリティマテリアルズでの順調な成長を取り込むことで、26年度におけるコア営業利益、営業利益、親会社に帰属する当期利益で大幅な増益を見込んでおります。

なお、中東情勢など外部環境の不確実性については、引き続き注視が必要であり、影響を慎重に見極めています。この点については、CFOの木田に後ほど詳細な説明をしてもらいます。また、各事業の成長戦略については、5月25日の投資家向け説明会で詳細をご説明いたします。

それでは、CFOの木田より、25年度決算および26年度業績予想につきましてご説明を申し上げます。

## 決算サマリー



### 2026年3月期 決算

- 2026年3月期の事業環境は、スペシャリティマテリアルズは概ね堅調に推移したものの、MMAやマテリアルズ&ポリマーズにおいては引き続き軟調な状況が継続し、3月以降は中東を中心とした地政学リスクの高まりを受けて、先行き不透明な状況が継続しています。
- ケミカルズ事業のコア営業利益は、243億円の黒字となりました。スペシャリティマテリアルズにおける売買差・数量差を中心とした収益の伸長に加え、コークス事業の構造改革による売買差改善やコスト削減効果を積み上げました。一方でMMAモノマーの市況悪化に加え、英国ソアノール関連固定資産の減損損失の計上が大きく影響し、前期比43%の減益となりました。産業ガスは堅調であったこともあり、グループ全体では前期比2%の減益にとどまりました。
- 親会社の所有者に帰属する当期利益は、田辺三菱製薬の譲渡に伴う利益の計上はあった一方、コークス・炭素材事業の撤退意思決定に伴う損失や三菱ケミカル株式会社のネクストステージ支援プログラムに伴う特別退職金の計上により、前期比で74%の減益となりました。

### 2027年3月期 業績予想

- 2027年3月期のコア営業利益は、3,050億円を予想します。ケミカルズ事業のコア営業利益は、スペシャリティマテリアルズにおける各製品の増販およびコスト削減に加え、MMAモノマー市況の底打ち、反転等により前期比757億円増の1,000億円を見込んでおります。産業ガスは堅調であり、前期比43億円増の2,050億円を見込んでおります。なお、業績予想値にはホルムズ海峡の事実上の封鎖を始めとした中東情勢の影響は織り込んでおりません。中東情勢の影響は本紙20ページをご参照ください。
- 親会社所有者に帰属する当期利益は、資産最適化にかかる非経常損失を大きく計上した前期と比べ1,152億円増の1,270億円を予想します。配当予想は、期末配当金予想16円、年間配当金予想32円といたします。
- 「規律ある事業運営の3原則」に則した施策を徹底してやり抜き、次世代・成長ドライバー領域に経営資源をより集中させ、ケミカルズ事業の持続的な成長に向けた取り組みを着実に実行してまいります。

3 | 三菱ケミカルグループ株式会社

**木田：** CFO の木田です。

最初に 2026 年 3 月期の決算サマリーについてご説明いたします。

2026 年 3 月期の事業環境は、スペシャリティマテリアルズは概ね堅調に推移したものの、MMA やベーシックマテリアルズ&ポリマーズにおいては引き続き軟調な状況が継続し、3 月以降は中東を中心とした地政学リスクの高まりを受けて、先行き不透明な状況が継続しています。

ケミカルズ事業のコア営業利益は、243 億円の黒字となりました。スペシャリティマテリアルズにおける売買差・数量差を中心とした収益の伸長に加え、コークス事業の構造改革による売買差改善やコスト削減効果を積み上げました。一方で MMA モノマーの市況悪化に加え、英国ソアノール関連固定資産の減損損失の計上が大きく影響し、前期比 43%の減益となりました。産業ガスは堅調であったこともあり、グループ全体では前期比 2%の減益にとどまりました。

親会社の所有者に帰属する当期利益は、田辺三菱製薬の譲渡に伴う利益の計上はあった一方、コークス・炭素材事業の撤退意思決定に伴う損失や三菱ケミカル株式会社のネクストステージ支援プログラムに伴う特別退職金の計上により、前期比で 74%の減益となりました。

次に、来期の業績予想についてお話しします。

2027 年 3 月期のコア営業利益は、3,050 億円を予想します。ケミカルズ事業のコア営業利益は、スペシャリティマテリアルズにおける各製品の増販およびコスト削減に加え、MMA モノマー市況の底打ち、反転等により前期比 757 億円増の 1,000 億円を見込んでおります。産業ガスは堅調であり、前期比 43 億円増の 2,050 億円を見込んでおります。なお、業績予想値にはホルムズ海峡の事実上の封鎖を始めとした中東情勢の影響は織り込んでおりません。中東情勢の影響は本紙 20 ページをご参照ください。

親会社所有者に帰属する当期利益は、資産最適化にかかる非経常損失を大きく計上した前期と比べ 1,152 億円増の 1,270 億円を予想します。配当予想は、期末配当金予想 16 円、年間配当金予想 32 円といたします。

「規律ある事業運営の 3 原則」に則した施策を徹底してやり抜き、次世代・成長ドライバー領域に経営資源をより集中させ、ケミカルズ事業の持続的な成長に向けた取り組みを着実に実行してまいります。

## 連結損益計算書



| 為替レート (¥/\$)     | 152.6        | 151.1        | △ 1.5    | △1%  |
|------------------|--------------|--------------|----------|------|
| ナフサ単価 (¥/kl)     | 75,600       | 65,200       | △ 10,400 | △14% |
|                  | (億円)         | (億円)         | (億円)     |      |
|                  | 25/3月期<br>通期 | 26/3月期<br>通期 | 増減       | 増減率  |
| 売上収益             | 39,476       | 37,040       | △ 2,436  | △6%  |
| コア営業利益 *1        | 2,288        | 2,250        | △ 38     | △2%  |
| 非経常項目            | △ 872        | △ 1,949      | △ 1,077  |      |
| 営業利益             | 1,416        | 301          | △ 1,115  | △79% |
| 税引前利益            | 992          | 7            | △ 985    | △99% |
| 継続事業からの当期利益(△損失) | 581          | △ 164        | △ 745    |      |
| 非継続事業からの当期利益     | 475          | 948          | 473      |      |
| 当期利益             | 1,056        | 784          | △ 272    |      |
| 親会社の所有者に帰属する当期利益 | 450          | 118          | △ 332    | △74% |
| 非支配持分に帰属する当期利益   | 606          | 666          | 60       |      |
| *1 内、持分法投資損益     | 78           | 70           | △ 8      |      |

コア営業利益は、営業利益（又は損失）から非経常的な要因により発生した損益（事業撤退や縮小から生じる損失等）を除いて算出しております。

2026 年 3 月期の損益概況について説明します。

通期の平均為替レートは 151.1 円で前期比 1%の円高でした。ナフサ単価は 65,200 円で、前期比 14%下落しました。

売上収益は 3 兆 7,040 億円で前期比▲2,436 億円となりました。減少要因の内訳は、売値で 1,090 億円の減、数量で 1,060 億円の減、事業再編等により 660 億円の減、為替で 370 億円の増となりました。

コア営業利益は 2,250 億円で前期比▲38 億円となりました。10 月に公表した通期業績予想 2,500 億円に対しては、英国におけるソアノール投資計画の見直しに伴い減損損失を▲303 億円計上したこと等により、下振れる結果となりました。

非経常項目は▲1,949 億円で、前年同期に比べ▲1,077 億円となりました。

営業利益は 301 億円、税引前利益は 7 億円、非継続事業からの当期利益が 948 億円、こちらには田辺三菱製薬株式会社の譲渡に伴う利益が含まれます。

親会社の所有者に帰属する当期利益は 118 億円と、前年同期と比べ 332 億円の減益となりました。

## 事業セグメント別 売上収益及びコア営業利益



|                              | 25/3月期 通期     |              | 26/3月期 通期     |              | 増減             |             |              |             |
|------------------------------|---------------|--------------|---------------|--------------|----------------|-------------|--------------|-------------|
|                              | 売上収益          | コア営業利益       | 売上収益          | コア営業利益       | 売上収益           | 増減率         | コア営業利益       | 増減率         |
| <b>全社</b>                    | <b>39,476</b> | <b>2,288</b> | <b>37,040</b> | <b>2,250</b> | <b>△ 2,436</b> | <b>△6%</b>  | <b>△ 38</b>  | <b>△2%</b>  |
| スペシャリティマテリアルズ                | 10,713        | 239          | 10,596        | 323          | △ 117          | △1%         | 84           | 35%         |
| アドバンスフィルムズ&ポリマーズ             | 4,708         | 340          | 4,496         | 74           | △ 212          |             | △ 266        |             |
| アドバンスソリューションズ                | 3,502         | 14           | 3,435         | 229          | △ 67           |             | 215          |             |
| アドバンスコンポジット&シェイプス            | 2,503         | △ 115        | 2,665         | 20           | 162            |             | 135          |             |
| <b>MMA&amp;デリバティブズ</b>       | <b>4,176</b>  | <b>357</b>   | <b>3,519</b>  | <b>△ 15</b>  | <b>△ 657</b>   | <b>△16%</b> | <b>△ 372</b> | <b>-</b>    |
| MMA                          | 3,075         | 323          | 2,455         | △ 83         | △ 620          |             | △ 406        |             |
| コーティング&アディティブス               | 1,101         | 34           | 1,064         | 68           | △ 37           |             | 34           |             |
| <b>ベーシックマテリアルズ&amp;ポリマーズ</b> | <b>9,866</b>  | <b>△ 146</b> | <b>7,907</b>  | <b>△ 42</b>  | <b>△ 1,959</b> | <b>△20%</b> | <b>104</b>   | <b>-</b>    |
| マテリアルズ&ポリマーズ                 | 7,782         | 128          | 6,853         | △ 19         | △ 929          |             | △ 147        |             |
| 炭素                           | 2,084         | △ 274        | 1,054         | △ 23         | △ 1,030        |             | 251          |             |
| その他                          | 1,710         | △ 23         | 1,493         | △ 23         | △ 217          | △13%        | 0            | -           |
| <b>ケミカルズ事業</b>               | <b>26,465</b> | <b>427</b>   | <b>23,515</b> | <b>243</b>   | <b>△ 2,950</b> | <b>△11%</b> | <b>△ 184</b> | <b>△43%</b> |
| 産業ガス                         | 13,011        | 1,861        | 13,525        | 2,007        | 514            | 4%          | 146          | 8%          |

\* セグメント内訳の数値は、説明を目的とした概算値であります。

\* 25/3月期について、ファーマ事業を非継続事業に組替えるとともに一部の会社においてセグメント組替を行っています。組替後の実績値を精査した結果、5/13発表時点の数値から一部変更をしております。

| 【在庫評価損益】             | 25/3月期 通期 | 26/3月期 通期 | 増減   |
|----------------------|-----------|-----------|------|
| アドバンスフィルムズ<br>&ポリマーズ | 2         | 2         | 0    |
| マテリアルズ&ポリマーズ         | 20        | △ 61      | △ 81 |
| 炭素                   | △ 94      | 19        | 113  |
| 合計                   | △ 72      | △ 40      | 32   |

5 | 三菱ケミカルグループ株式会社

次に事業セグメントごとの売上収益、コア営業利益について説明します。

ケミカルズ事業全体では前期比 11%の減収、43%の減益となりました。売上収益は構造改革を着実に進めた結果としての事業売却、製品市況・原料価格が低下したこと、等により 2,950 億円減少しました。コア営業利益はスペシャリティマテリアルズが堅調に推移し業績を牽引、また、炭素は着実に改善しましたが、MMA モノマーの市況下落やソアノール関連固定資産の減損損失計上等によってケミカルズ全体としては 184 億円の減益となりました。

各セグメントの詳細は後ほど別のページにてご説明いたします。

産業ガスは安定的に進捗、前期比 4% の増収、8% の増益となりました。

## コア営業利益（全社） 増減要因



\*1 在庫評価損益差+32億円・持分法投資損益差△8億円等の金額が含まれております。

コア営業利益の前期比▲38 億円減益の内訳を示します。

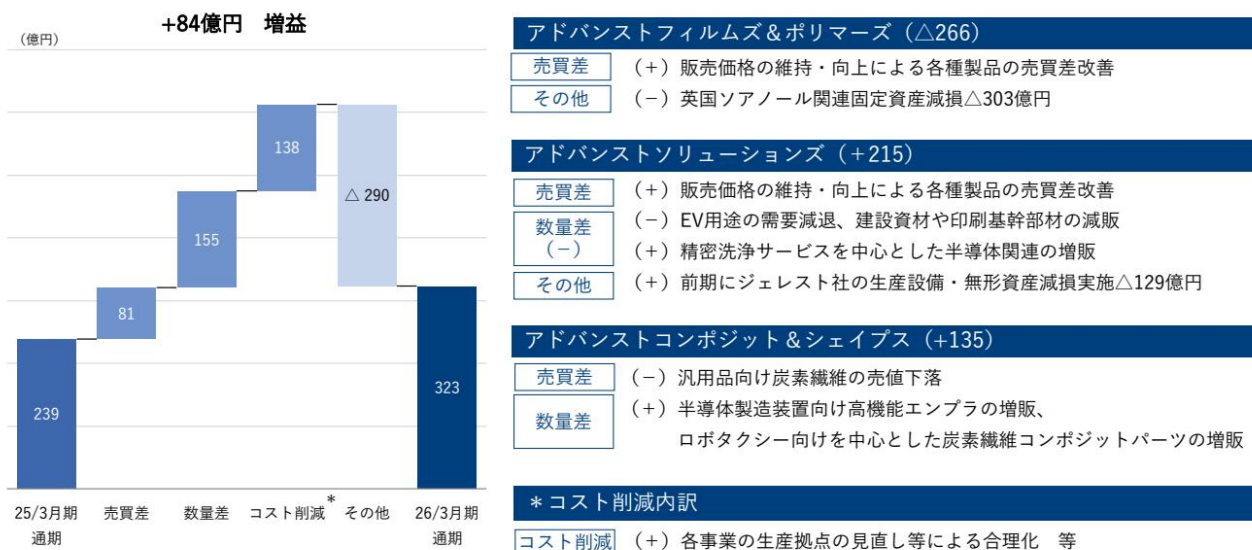
売買差は 266 億円のマイナスとなりました。MMA&デリバティブズにおいて市況価格の下落により売買差が大幅に悪化した一方で、スペシャルティマテリアルズにおける販売価格の維持・向上やベーシックマテリアルズ&ポリマーズのポリオレフィンや炭素の売買差が改善しました。

数量差は 41 億円のプラスとなりました。欧米における需要は産業ガスを中心に総じて軟調でしたが、ロボタクシー向けを中心とした炭素繊維コンポジットパーツは増販となりました。

コスト削減は 622 億円のプラスと、産業ガス、ケミカルズそれぞれにおいて、各事業で効果を積み増しました。

その他差は 435 億円のマイナスとなりました。イギリスにおけるソアノール関連固定資産の減損損失計上、インフレ等に伴うコスト増加が含まれています。

## スペシャルティマテリアルズセグメント コア営業利益増減分析



7 | 三菱ケミカルグループ株式会社

それでは、セグメント別の詳細について説明します。

スペシャルティマテリアルズは前期比 84 億円の増益でした。売買差は 81 億円のプラスでした。

アドバンスフィルムズ&ポリマーズ及びアドバンスソリューションズにおいて、半導体関連製品をはじめ各製品での販売価格の維持・向上により売買差が改善しました。数量差は 155 億円のプラスとなりました。

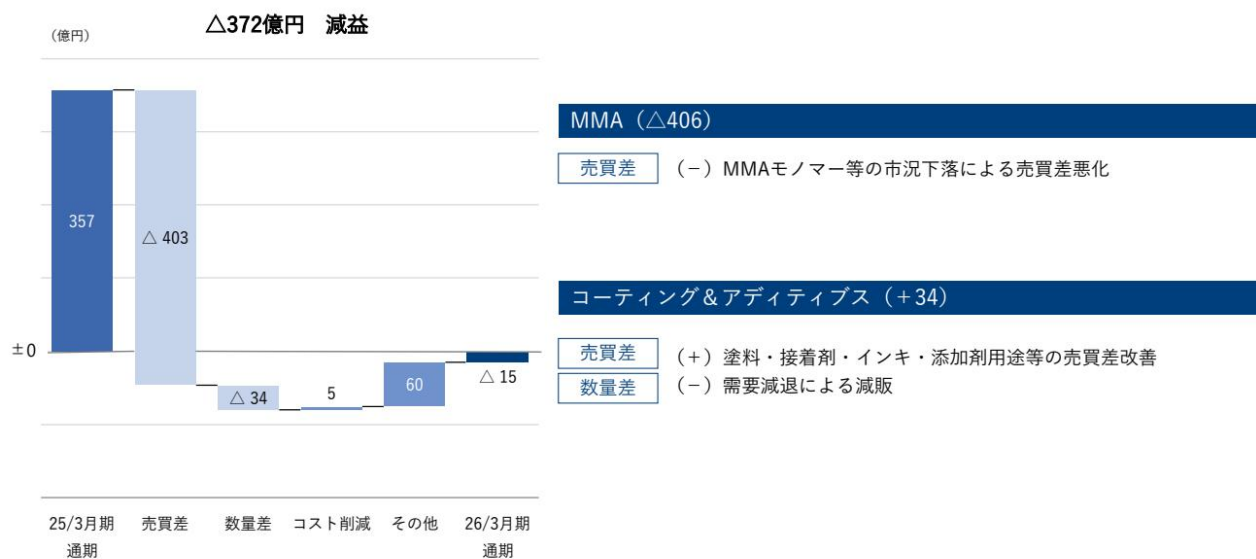
アドバンスソリューションズにおいては、精密洗浄サービスを中心とした半導体関連事業は増販したものの、欧米を中心とした EV 向け電解液の需要減退等により数量差は悪化しました。

アドバンスコンポジット&シェイプスでは、半導体製造装置向け高機能エンジニアリングプラスチックやロボタクシー向けを中心とした炭素繊維コンポジットパーツの増販により数量差は改善しました。

コスト削減は、各事業における構造改革の推進、生産拠点の見直し等による合理化効果を積み上げ、プラス 138 億円となりました。

その他差マイナス 290 億円は、イギリスにおけるソアノール関連固定資産の減損損失計上やインフレに伴うコスト増加が要因となります。

## MMA&デリバティブズセグメント コア営業利益増減分析

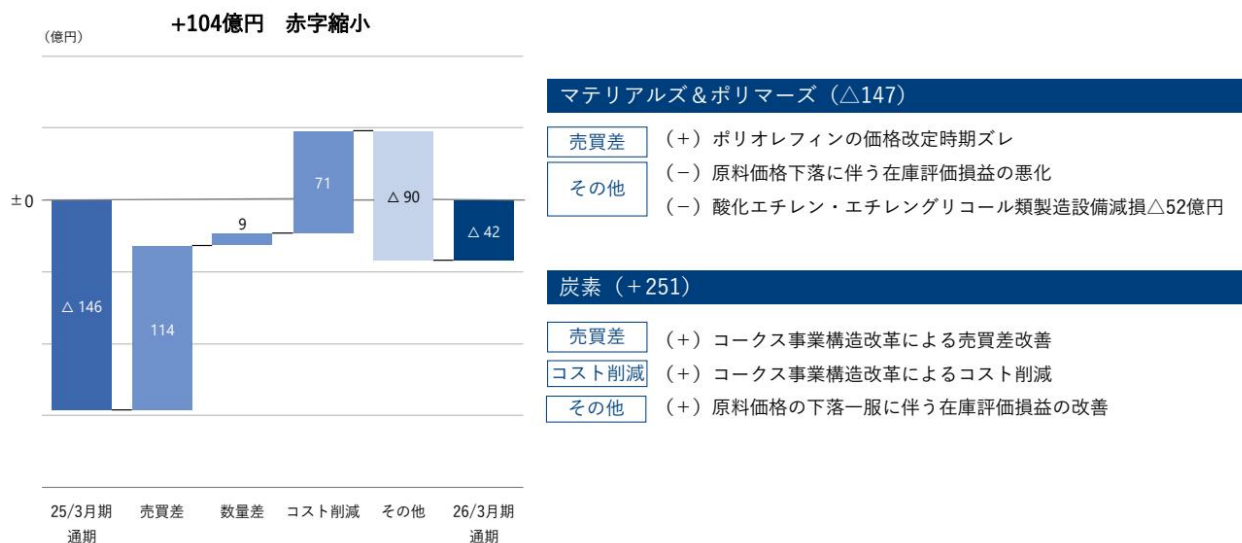


8 | 三菱ケミカルグループ株式会社

MMA&デリバティブズは前期比▲372 億円の減益となりました。

売買差は▲403 億円の悪化となりました。コーティング&アディティブスの売買差は改善しましたが、MMA モノマーの市況が前期比で大きく下落し、スプレッドが縮小しました。

## ベーシックマテリアルズ&ポリマーズセグメント コア営業利益増減分析



9 | 三菱ケミカルグループ株式会社

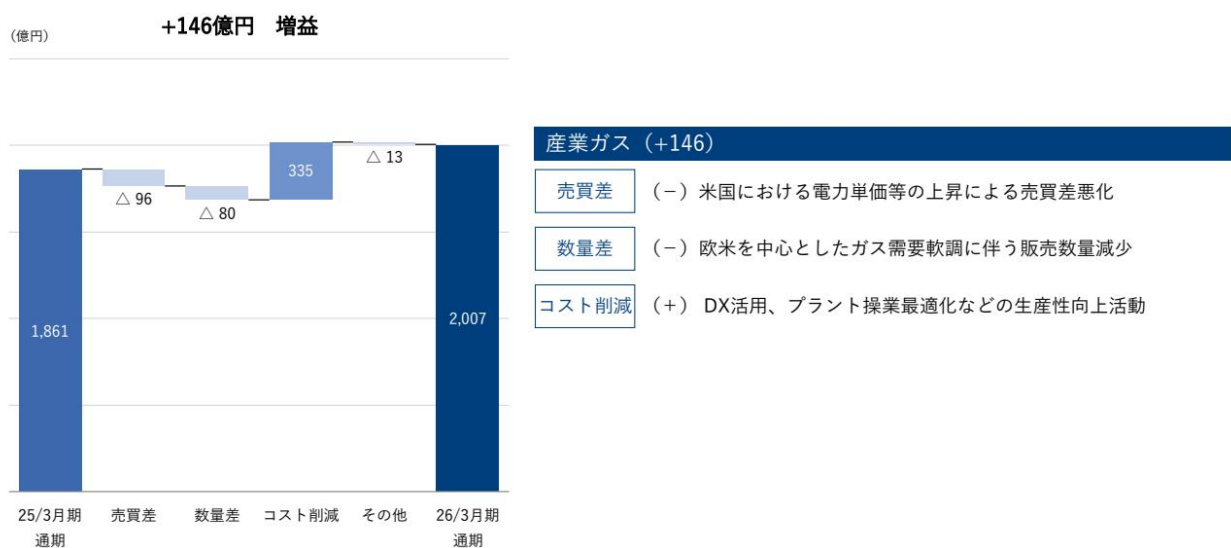
ベーシックマテリアルズ&ポリマーズは前期比 104 億円の赤字縮小となりました。

売買差は+114 億円、マテリアルズ&ポリマーズでは、ポリオレフィンの販売価格の期ズレの影響、ナフサ価格下落局面で相対的に販売価格を高いレベルで維持できたことから、利益改善に貢献しました。炭素も、香川での生産能力縮小が完了し、市況価格ベースの赤字取引が削減できたことから、前期比で売買差が改善しました。

コスト削減影響は 71 億円のプラスで、炭素の構造改革による効果を積み増しました。

その他差マイナス 90 億円は、酸化エチレン・エチレングリコール類製造設備の減損損失の計上に加え、マテリアルズ&ポリマーズにおける在庫評価損益が悪化したことによるものです。

## 産業ガスセグメント コア営業利益増減分析



10 | 三菱ケミカルグループ株式会社

産業ガスは前期比 146 億円のコア営業利益の増益となりました。

米国における電力単価等の上昇による売買差悪化や欧米を中心とした販売数量減少はあったものの、各地域で推進している生産性向上等の取り組み等によるコスト削減の効果により増益となりました。

## 非経常項目



|                  | 25/3月期<br>通期 | 26/3月期<br>通期 | 増減      |
|------------------|--------------|--------------|---------|
| 非経常項目 合計         | △ 872        | △ 1,949      | △ 1,077 |
| 事業譲渡益            | 10           | 80           | 70      |
| 関係会社株式売却益        | 56           | 24           | △ 32    |
| リストラクチャリング引当金戻入額 | 18           | 15           | △ 3     |
| 減損損失             | △ 748        | △ 614        | 134     |
| リストラクチャリング引当金繰入額 | -            | △ 592        | △ 592   |
| 特別退職金            | △ 54         | △ 531        | △ 477   |
| 持分法による投資損失       | -            | △ 93         | △ 93    |
| 固定資産除売却損         | △ 152        | △ 69         | 83      |
| 棚卸資産処分損          | △ 12         | △ 48         | △ 36    |
| その他              | 10           | △ 121        | △ 131   |

11 | 三菱ケミカルグループ株式会社

非経常項目です。

通期の非経常項目は合計マイナス 1,949 億円となりました。第 4 四半期において、新たに 1,226 億円の非経常損失を計上しています。

リストラクチャリング引当額繰入額が▲592 億円、減損損失として▲306 億円、特別退職金として▲158 億円、など多くの費用を第 4 四半期において計上しておりますが、これらはコークス炭素材事業の撤退をはじめとした構造改革を多数推進したことによって発生した結果となります。

通期で 1,949 億円という大きな金額となりましたが、2026 年度以降の成長に必要な構造改革であったと考えています。

## 連結キャッシュ・フロー計算書



|           | 25/3月期<br>通期 | 26/3月期<br>通期 |              | 25/3月期<br>通期 | 26/3月期<br>通期 |
|-----------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 営業活動によるCF | 5,528        | 4,363        | 財務活動によるCF    | △ 2,467      | △ 3,752      |
| 税前損益      | 1,507        | 1,350        | 有利子負債        | △ 1,829      | △ 2,507      |
| 減価償却費     | 2,759        | 2,712        | 配当 他         | △ 638        | △ 1,245      |
| 営業債権債務    | 307          | △ 163        | 現金及び現金同等物の増減 | 307          | 1,856        |
| 棚卸資産      | 134          | △ 4          | 為替換算差等       | 5            | 154          |
| その他       | 821          | 468          | 合計           | 312          | 2,010        |
| 投資活動によるCF | △ 2,754      | 1,245        |              |              |              |
| 設備投資      | △ 3,250      | △ 2,921      |              |              |              |
| 資産売却      | 540          | 5,416        |              |              |              |
| 投融資 他     | △ 44         | △ 1,250      |              |              |              |
| FCF       | 2,774        | 5,608        |              |              |              |

12 | 三菱ケミカルグループ株式会社

キャッシュ・フローについてご説明します。

営業キャッシュ・フローは 4,363 億円の収入となりました。営業債権債務のキャッシュ・フローは 163 億円の支出となりましたが、ナフサ価格下落により営業債務が減少したことが主な要因です。

投資キャッシュ・フローは 1,245 億円の収入となりました。

設備投資のキャッシュ・フローはマイナス 2,921 億円です。

炭素繊維複合材料のイタリアにおける能力増強や、バリア包材用途のソアノールの英国での能力増強など、スペシャリティマテリアルズの成長投資案件が進捗しております。

資産売却によるキャッシュ・フローは 5,416 億円のプラスでした。事業ポートフォリオの見直しを進め、田辺三菱製薬を中心とした関係会社株式売却に伴う収入の他、政策保有株売却等による収入を計上しています。

投融資その他は 1,250 億円のマイナスでした。この中には、産業ガスセグメントにおけるオーストラリア及びニュージーランドでの子会社取得にかかる支出が含まれております。

その結果、フリーキャッシュ・フローはプラス 5,608 億円となりました。

財務キャッシュ・フローは、有利子負債の返済や配当、自己株式取得等により、マイナス 3,752 億円となりました。

## 連結財政状態計算書



|                | (億円)          |               |              |
|----------------|---------------|---------------|--------------|
|                | 25/3月末        | 26/3月末        | 増減           |
| 現金及び現金同等物      | 3,261         | 5,271         | 2,010        |
| 営業債権           | 7,648         | 6,719         | △ 929        |
| 棚卸資産           | 7,594         | 6,691         | △ 903        |
| その他            | 2,113         | 2,271         | 158          |
| <b>流動資産合計</b>  | <b>20,616</b> | <b>20,952</b> | <b>336</b>   |
| 固定資産           | 24,465        | 24,743        | 278          |
| のれん            | 8,276         | 8,910         | 634          |
| 投融資等           | 5,589         | 4,161         | △ 1,428      |
| <b>非流動資産合計</b> | <b>38,330</b> | <b>37,814</b> | <b>△ 516</b> |
| <b>資産合計</b>    | <b>58,946</b> | <b>58,766</b> | <b>△ 180</b> |

|                       | (億円)          |               |                |
|-----------------------|---------------|---------------|----------------|
|                       | 25/3月末        | 26/3月末        | 増減             |
| 有利子負債                 | 21,785        | 20,219        | △ 1,566        |
| 営業債務                  | 4,246         | 3,837         | △ 409          |
| その他                   | 10,069        | 10,563        | 494            |
| <b>負債合計</b>           | <b>36,100</b> | <b>34,619</b> | <b>△ 1,481</b> |
| 資本金・剰余金等              | 15,124        | 14,384        | △ 740          |
| その他の資本の構成要素           | 2,282         | 3,233         | 951            |
| <b>親会社の所有者に帰属する持分</b> | <b>17,406</b> | <b>17,617</b> | <b>211</b>     |
| 非支配持分                 | 5,440         | 6,530         | 1,090          |
| <b>資本合計</b>           | <b>22,846</b> | <b>24,147</b> | <b>1,301</b>   |
| <b>負債・資本合計</b>        | <b>58,946</b> | <b>58,766</b> | <b>△ 180</b>   |

|             |        |        |         |
|-------------|--------|--------|---------|
| ネット有利子負債 *1 | 18,523 | 14,648 | △ 3,875 |
| ネットD/Eレシオ   | 1.06   | 0.83   | △ 0.23  |
| ROE *2      | 2.6%   | 0.7%   | △1.9%   |

\*1 ネット有利子負債(26/3月末)

= 有利子負債20,219億円 - (現金・現金同等物5,271億円 + 手元運用資金残高300億円) 注) 有利子負債はリース負債を含む

\*2 親会社所有者帰属持分当期利益率

連結財政状態計算書です。

資産合計は5兆8,766円、前期末比で180億円減少しました。MTPCの売却を中心とした事業再編の影響で約6,300億円減少しました。一方、資産の増加要因として、MTPCの売却対価のうち3月末時点のバランスで手元の資金として残った部分の影響と、為替による増加があります。これらをネットして合計では約180億円の総資産の減少となりました。

ネット有利子負債は前期末比で3,875億円減少し、ネットDEレシオは0.83と、前年度末の1.06から大きく改善しました。

# 事業セグメント別 売上収益及びコア営業利益 四半期別推移



(億円)

|                   |        | 25/3月期 |       |       |       |        | 26/3月期 |       |       |       |        |
|-------------------|--------|--------|-------|-------|-------|--------|--------|-------|-------|-------|--------|
|                   |        | 1Q     | 2Q    | 3Q    | 4Q    | 累計     | 1Q     | 2Q    | 3Q    | 4Q    | 累計     |
| 会社                | 売上収益   | 10,170 | 9,928 | 9,729 | 9,649 | 39,476 | 8,807  | 9,184 | 9,382 | 9,667 | 37,040 |
|                   | コア営業利益 | 636    | 659   | 607   | 386   | 2,288  | 566    | 695   | 595   | 394   | 2,250  |
| スペシャルティマテリアルズ     | 売上収益   | 2,743  | 2,635 | 2,675 | 2,660 | 10,713 | 2,583  | 2,616 | 2,659 | 2,738 | 10,596 |
|                   | コア営業利益 | 110    | 131   | 93    | △ 95  | 239    | 141    | 190   | 121   | △ 129 | 323    |
| アドバンスフィルムズ&ポリマーズ  | 売上収益   | 1,189  | 1,177 | 1,179 | 1,163 | 4,708  | 1,137  | 1,120 | 1,141 | 1,098 | 4,496  |
|                   | コア営業利益 | 87     | 104   | 94    | 55    | 340    | 118    | 105   | 90    | △ 239 | 74     |
| アドバンスソリューションズ     | 売上収益   | 872    | 857   | 905   | 868   | 3,502  | 825    | 876   | 855   | 879   | 3,435  |
|                   | コア営業利益 | 31     | 41    | 35    | △ 93  | 14     | 37     | 88    | 42    | 62    | 229    |
| アドバンスコンポジット&シェイプス | 売上収益   | 682    | 601   | 591   | 629   | 2,503  | 621    | 620   | 663   | 761   | 2,665  |
|                   | コア営業利益 | △ 8    | △ 14  | △ 36  | △ 57  | △ 115  | △ 14   | △ 3   | △ 11  | 48    | 20     |
| MMA&デリバティブズ       | 売上収益   | 1,119  | 1,124 | 963   | 970   | 4,176  | 912    | 869   | 857   | 881   | 3,519  |
|                   | コア営業利益 | 110    | 158   | 62    | 27    | 357    | 39     | 3     | △ 26  | △ 31  | △ 15   |
| MMA               | 売上収益   | 841    | 850   | 693   | 691   | 3,075  | 656    | 601   | 589   | 609   | 2,455  |
|                   | コア営業利益 | 99     | 148   | 58    | 18    | 323    | 25     | △ 15  | △ 43  | △ 50  | △ 83   |
| コーティング&アディティブス    | 売上収益   | 278    | 274   | 270   | 279   | 1,101  | 256    | 268   | 268   | 272   | 1,064  |
|                   | コア営業利益 | 11     | 10    | 4     | 9     | 34     | 14     | 18    | 17    | 19    | 68     |
| ベーシックマテリアルズ&ポリマーズ | 売上収益   | 2,722  | 2,666 | 2,458 | 2,020 | 9,866  | 1,915  | 1,956 | 2,059 | 1,977 | 7,907  |
|                   | コア営業利益 | △ 70   | △ 47  | △ 3   | △ 26  | △ 146  | △ 36   | 12    | △ 5   | △ 13  | △ 42   |
| マテリアルズ&ポリマーズ      | 売上収益   | 1,965  | 1,989 | 2,082 | 1,746 | 7,782  | 1,667  | 1,731 | 1,777 | 1,678 | 6,853  |
|                   | コア営業利益 | 12     | 32    | 46    | 38    | 128    | △ 7    | 40    | △ 5   | △ 47  | △ 19   |
| 炭素                | 売上収益   | 757    | 677   | 376   | 274   | 2,084  | 248    | 225   | 282   | 299   | 1,054  |
|                   | コア営業利益 | △ 82   | △ 79  | △ 49  | △ 64  | △ 274  | △ 29   | △ 28  | △ 0   | 34    | △ 23   |
| その他               | 売上収益   | 311    | 384   | 369   | 646   | 1,710  | 267    | 403   | 354   | 469   | 1,493  |
|                   | コア営業利益 | 12     | △ 28  | △ 1   | △ 6   | △ 23   | △ 28   | 10    | △ 9   | 4     | △ 23   |
| ケミカルズ事業           | 売上収益   | 6,895  | 6,809 | 6,465 | 6,296 | 26,465 | 5,677  | 5,844 | 5,929 | 6,065 | 23,515 |
|                   | コア営業利益 | 162    | 214   | 151   | △ 100 | 427    | 116    | 215   | 81    | △ 169 | 243    |
| 産業ガス              | 売上収益   | 3,275  | 3,119 | 3,264 | 3,353 | 13,011 | 3,130  | 3,340 | 3,453 | 3,602 | 13,525 |
|                   | コア営業利益 | 474    | 445   | 456   | 486   | 1,861  | 450    | 480   | 514   | 563   | 2,007  |

\* セグメント内訳の数値は、説明を目的とした概算値であります。

\* 25/3月期について、ファーマ事業を非継続事業に転替するとともに一部の会社においてセグメント転替を行っておりますが、転替後の実績値を精査した結果、5/13発表時点の数値から一部変更をしております。

14 | 三菱ケミカルグループ株式会社

こちらのページで、2026 年 3 月期第 3 四半期から 2026 年 3 月期第 4 四半期にかけてのコア営業利益の推移について補足いたします。

第 4 四半期のコア営業利益は 394 億円と、第 3 四半期に比べ 201 億円減益となりました。

スペシャルティマテリアルズは第 4 四半期▲129 億円となり、第 3 四半期 121 億円から 250 億円の減益となりました。欧米の冬期休暇影響の解消に加え、ロボタクシー向けを中心としたコンポジットパーツ事業の業績改善や、炭素繊維汎用焼成ライン一部休止に伴う合理化効果はありましたが、ソアノール関連固定資産の減損損失計上もあり大幅に減益となりました。

MMA&デリバティブズは第 4 四半期▲31 億円となり、第 3 四半期▲26 億円から概ね横這いとなりました。

ベーシックマテリアルズ&ポリマーズは、第 3 四半期▲5 億円から、第 4 四半期▲13 億円と 8 億円の減益となりました。炭素においては、在庫評価損益の改善等により黒字になりましたが、マテリアルズ&ポリマーズでは、酸化エチレン及びエチレングリコール類製造設備における減損損失の計上等により赤字拡大しました。

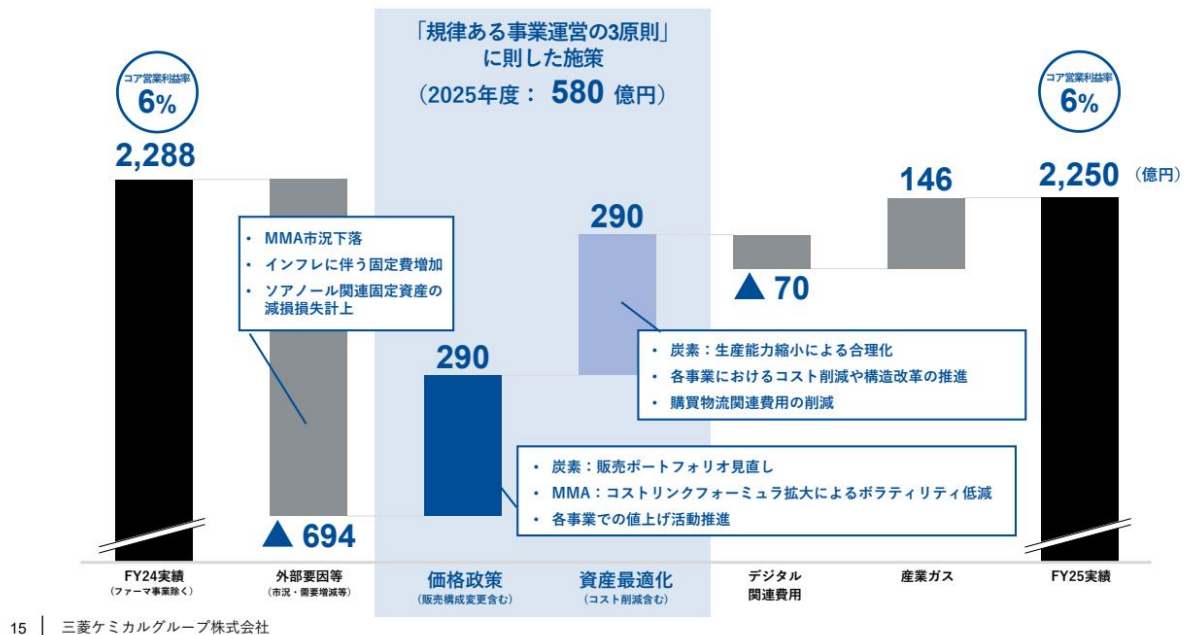
産業ガスは、価格マネジメントや生産性向上活動等の取組みにより第 3 四半期 514 億円から、第 4 四半期 563 億円へ、49 億円増益となりました。

## 規律ある事業運営の3原則

価格政策

投資判断

資産最適化



当社は、現行の中期経営計画において、ケミカルズ事業の利益改善のため、規律ある事業運営の3原則、すなわち価格政策、投資判断、資産最適化を掲げております。

2026年3月期は、この規律3原則に基づく施策の効果が580億円となりました。

価格政策の効果が290億円になります。炭素においては、赤字の輸出販売の削減、販売価格をコストリンクフォーミュラに変えることにより効果を手取りました。MMAにおいてもコストリンクフォーミュラを拡大したことが寄与しております。その他の事業においても、スペシャリティマテリアルズを中心に値上げ活動を推進した結果、通期で290億円の結果となりました。

資産最適化は290億円の効果となりました。炭素の生産能力縮小によるコスト削減の他、各事業で不採算事業の撤退など、構造改革を多数実施いたしました。ケミカルズ事業の選択と集中については、中期経営計画で掲げている4,000億円規模の事業整理・売却に対して、この2年間で4,900億相当の意思決定しており、2026年度以降の成長へ向けた土台を整備しました。

## 報告セグメントの変更



2026年4月1日付の組織改正に伴い、2027年3月期以降の報告セグメントを下記の通り変更いたします。

旧報告セグメント（～26/3月期）

| 会社                | 26/3月期 |        |
|-------------------|--------|--------|
|                   | 売上収益   | コア営業利益 |
| 全社                | 37,040 | 2,250  |
| スペシャリティマテリアルズ     | 10,596 | 323    |
| アドバンスフィルムズ&ポリマーズ  | 4,496  | 74     |
| アドバンスソリューションズ     | 3,435  | 229    |
| アドバンスコンポジット&シェイプス | 2,665  | 20     |
| MMA&デリバティブズ       | 3,519  | △15    |
| MMA               | 2,455  | △83    |
| コーティング&アディティブス    | 1,064  | 68     |
| ペーシクマテリアルズ&ポリマーズ  | 7,907  | △42    |
| マテリアルズ&ポリマーズ      | 6,853  | △19    |
| 炭素                | 1,054  | △23    |
| その他               | 1,493  | △23    |
| ケミカルズ事業           | 23,515 | 243    |
| 産業ガス              | 13,525 | 2,007  |

① ソーノール、ゴーゼノール、パッケージング・バリアフィルムズ、工業・メディカルフィルムズ、アセチル・光学フィルムズ、ポリエステルフィルムズ  
 ② フード・ヘルスケア  
 ③ エンジニアリングシェイプス、炭素繊維・複合材料  
 ④ 半導体、エレクトロニクス、電池材料

新報告セグメント（27/3月期～）

| 会社                    | 26/3月期 |        |
|-----------------------|--------|--------|
|                       | 売上収益   | コア営業利益 |
| 全社                    | 37,040 | 2,250  |
| スペシャリティマテリアルズ         | 11,778 | 449    |
| ① フィルムズ&パフォーマンスマテリアルズ | 3,857  | 14     |
| ② コンポジット&シェイプス        | 2,522  | 31     |
| ③ 情報電子                | 1,754  | 93     |
| ④ ポリマーコンパウンズ          | 2,253  | 204    |
| ⑤ 水・インフラ              | 1,392  | 107    |
| MMA&デリバティブズ           | 3,447  | △20    |
| MMA                   | 2,455  | △83    |
| 機能化学品                 | 992    | 63     |
| ペーシクマテリアルズ            | 6,797  | △164   |
| 基礎化学品                 | 5,743  | △141   |
| 炭素                    | 1,054  | △23    |
| その他                   | 1,493  | △22    |
| ケミカルズ事業               | 23,515 | 243    |
| 産業ガス                  | 13,525 | 2,007  |

⑤ ファインケミカルズ  
 ⑥ パフォーマンスポリマーズ  
 ⑦ ガラス繊維複合材料等の一部部材  
 ⑧ エンジニアリングプラスチック、ポリプロピレンコンパウンド  
 ⑨ インフラソリューション、アクアソリューション

17 | 三菱ケミカルグループ株式会社

業績予想の内容に入る前に、報告セグメントの変更についてお話しします。

2026年4月1日の組織改正に伴い、2027年3月期以降の報告セグメントをこちらのスライドの通り変更いたします。

スペシャリティマテリアルズは、「フィルムズ&パフォーマンスマテリアルズ」「コンポジット&シェイプス」「情報電子」「ポリマーコンパウンズ」「水・インフラ」の5つに分けて開示いたします。

「フィルムズ&パフォーマンスマテリアルズ」は、従来のアドバンスフィルムズ&ポリマーズに属していた事業を中心に分類しております。

「コンポジット&シェイプス」は、従来のアドバンスコンポジット&シェイプスに属していた事業を中心に分類しております。

「情報電子」は、従来のアドバンスソリューションズに属していた半導体事業、電池・エレクトロニクス事業を中心に分類しております。

「ポリマーコンパウンズ」は、従来のアドバンスフィルムズ&ポリマーズに属していたパフォーマンスポリマーズ事業、マテリアルズ&ポリマーズに属していたエンジニアリングプラスチック事業・ポリプロピレンコンパウンド事業を中心に分類しております。

「水・インフラ」は、従来のアドバンストソリューションズに属していた水・環境事業、インフラソリューションズ事業を中心に分類しております。

MMA&デリバティブズは大きく変わらず、従来の MMA&デリバティブズに属していた事業を中心に分類しております。

ベーシックマテリアルズは、従来のベーシックマテリアルズ&ポリマーズに属していた事業を中心に分類しております。

KAITEKI Vision 35 および中期経営計画の目標達成に向けて、経営陣が各事業をハンズオンでマネージしやすい体制に、ビジネスグループの事業を再編いたしました。

投資家、アナリストの皆さまにはご不便をおかけいたしますが、ご理解賜りますようお願い申し上げます。

## 業績予想 連結損益計算書



- 業績予想値にはホルムズ海峡の事実上の封鎖を始めとした中東情勢の影響は織り込んでおりません。
- なお、仮に足元の情勢が9月末まで継続する場合、2027年3月期の予想コア営業利益に対し、約180億円の下振れを見込んでおります。

| 為替レート (¥/\$)     | 151.1        | 150.0  | 150.0  | 150.0        | △ 1.1   |      |
|------------------|--------------|--------|--------|--------------|---------|------|
| ナフサ単価 (¥/kl)     | 65,200       | 63,000 | 63,000 | 63,000       | △ 2,200 |      |
|                  |              |        |        |              | (億円)    |      |
|                  | 26/3月期<br>実績 | 上期     | 下期     | 27/3月期<br>予想 | 増減      | 増減率  |
| 売上収益             | 37,040       | 18,610 | 19,390 | 38,000       | 960     | 3%   |
| コア営業利益           | 2,250        | 1,390  | 1,660  | 3,050        | 800     | 36%  |
| 非経常項目            | △ 1,949      | 40     | △ 90   | △ 50         | 1,899   |      |
| 営業利益             | 301          | 1,430  | 1,570  | 3,000        | 2,699   | 897% |
| 金融収益・費用          | △ 294        | △ 140  | △ 160  | △ 300        | △ 6     |      |
| 税引前利益            | 7            | 1,290  | 1,410  | 2,700        | 2,693   | -    |
| 法人所得税            | △ 171        | △ 310  | △ 390  | △ 700        | △ 529   |      |
| 継続事業からの当期利益(△損失) | △ 164        | 980    | 1,020  | 2,000        | 2,164   | -    |
| 非継続事業からの当期利益     | 948          | -      | -      | -            | △ 948   |      |
| 当期利益             | 784          | 980    | 1,020  | 2,000        | 1,216   | 155% |
| 親会社の所有者に帰属する当期利益 | 118          | 590    | 680    | 1,270        | 1,152   | 974% |
| 非支配持分に帰属する当期利益   | 666          | 390    | 340    | 730          | 64      |      |

18 | 三菱ケミカルグループ株式会社

2027年3月期通期業績予想についてご説明します。

為替は1ドル150円、ナフサ単価は63,000円を前提とした予想となります。

通期の売上収益は3兆8,000億円、2026年3月期より960億円増となる見通しです。

コア営業利益は3,050億円、同800億円増の見通しです。

営業利益は3,000億円、税引前利益は2,700億円、継続事業からの当期利益は2,000億円、の見通しです。

親会社の所有者に帰属する当期利益は1,270億円、同1,152億円増の見通しです。

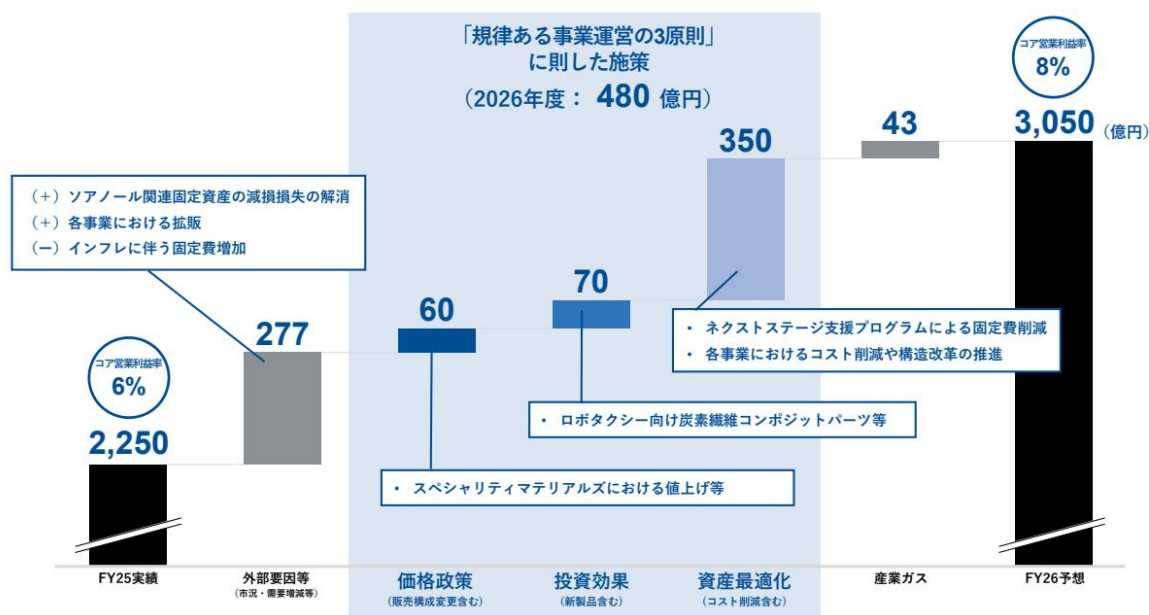
なお、当該業績予想値にはホルムズ海峡の事実上の封鎖を始めとした中東情勢の影響は織り込んでおりません。仮に足元の情勢が9月末まで継続する場合、2027年3月期の予想コア営業利益に対し、約180億円の下振れを見込んでおります。

## 規律ある事業運営の3原則

価格政策

投資判断

資産最適化



19 | 三菱ケミカルグループ株式会社

2027 年 3 月期における規律ある事業運営の 3 原則に基づく施策の効果は 480 億円を見込みます。

価格政策として、スペシャルティマテリアルズを中心とした値上げ活動を引き続き推進していきます。

投資効果として、ロボタクシー向け炭素繊維コンポジットパーツの出荷が本格化し利益に貢献すること等を見込んでいます。

資産最適化として、26 年 3 月期に実施しましたネクストステージ支援プログラムによる固定費の削減、及び各事業におけるコスト削減・構造改革の推進を継続して取り組むことによる効果を見込んでいます。

## 業績予想 事業セグメント別 売上収益及びコア営業利益



|                     |        | 26/3月期 |        | 27/3月期 |        | 増減   |
|---------------------|--------|--------|--------|--------|--------|------|
|                     |        | 実績     | 上期     | 下期     | 予想     |      |
| 会社                  | 売上収益   | 37,040 | 18,610 | 19,390 | 38,000 | 960  |
|                     | コア営業利益 | 2,250  | 1,390  | 1,660  | 3,050  | 800  |
| スペシャルティマテリアルズ       | 売上収益   | 11,778 | 6,060  | 6,310  | 12,370 | 592  |
|                     | コア営業利益 | 449    | 380    | 520    | 900    | 451  |
| フィルムズ&パフォーマンスマテリアルズ | 売上収益   | 3,857  | 1,870  | 1,970  | 3,840  | △ 17 |
|                     | コア営業利益 | 14     | 160    | 180    | 340    | 326  |
| コンポジット&シェイプス        | 売上収益   | 2,522  | 1,390  | 1,440  | 2,830  | 308  |
|                     | コア営業利益 | 31     | 30     | 90     | 120    | 89   |
| 情報電子                | 売上収益   | 1,754  | 910    | 950    | 1,860  | 106  |
|                     | コア営業利益 | 93     | 50     | 60     | 110    | 17   |
| ポリマーコンパウンズ          | 売上収益   | 2,253  | 1,220  | 1,210  | 2,430  | 177  |
|                     | コア営業利益 | 204    | 100    | 110    | 210    | 6    |
| 水・インフラ              | 売上収益   | 1,392  | 670    | 740    | 1,410  | 18   |
|                     | コア営業利益 | 107    | 40     | 80     | 120    | 13   |
| MMA&デリバティブズ         | 売上収益   | 3,447  | 1,760  | 1,730  | 3,490  | 43   |
|                     | コア営業利益 | △ 20   | 50     | 60     | 110    | 130  |
| MMA                 | 売上収益   | 2,455  | 1,250  | 1,250  | 2,500  | 45   |
|                     | コア営業利益 | △ 83   | 10     | 30     | 40     | 123  |
| 機能化学品               | 売上収益   | 992    | 510    | 480    | 990    | △ 2  |
|                     | コア営業利益 | 63     | 40     | 30     | 70     | 7    |
| ベーシックマテリアルズ         | 売上収益   | 6,797  | 3,290  | 3,540  | 6,830  | 33   |
|                     | コア営業利益 | △ 164  | △ 60   | 10     | △ 50   | 114  |
| 基礎化学品               | 売上収益   | 5,743  | 2,790  | 3,040  | 5,830  | 87   |
|                     | コア営業利益 | △ 141  | △ 60   | 20     | △ 40   | 101  |
| 炭素                  | 売上収益   | 1,054  | 500    | 500    | 1,000  | △ 54 |
|                     | コア営業利益 | △ 23   | 0      | △ 10   | △ 10   | 13   |
| その他                 | 売上収益   | 1,493  | 660    | 930    | 1,590  | 97   |
|                     | コア営業利益 | △ 22   | 10     | 30     | 40     | 62   |
| ケミカルズ事業             | 売上収益   | 23,515 | 11,770 | 12,510 | 24,280 | 765  |
|                     | コア営業利益 | 243    | 380    | 620    | 1,000  | 757  |
| 産業ガス                | 売上収益   | 13,525 | 6,840  | 6,880  | 13,720 | 195  |
|                     | コア営業利益 | 2,007  | 1,010  | 1,040  | 2,050  | 43   |

- 業績予想値にはホルムズ海峡の事実上の封鎖を始めとした中東情勢の影響は織り込んでおりません。
- なお、仮に足元の情勢が9月末まで継続する場合、2027年3月期の予想コア営業利益に対し、スペシャルティマテリアルズで約60億円、MMA&デリバティブズで約100億円、ベーシックマテリアルズで約20億円程度の下振れを見込んでおります。産業ガスでの影響は限定的と見込んでおります。

\* セグメント内訳の数値は、説明を目的とした概算値であります。

20 | 三菱ケミカルグループ株式会社

事業セグメント別の業績予想です。

スペシャルティマテリアルズは、インフレ等によるコストの増加影響はありますが、ソアノール関連固定資産の減損損失影響の解消に加え、MLCC 向けポリエステルフィルム、バリア包材用途であるソアノール、半導体関連事業、ロボタクシー向けを中心としたコンポジットパーツ等、成長ドライバーと位置付けている事業で増販を見込んでおります。

MMA&デリバティブズは、MMA モノマー市況の緩やかな改善及び増販により黒字化を見込んでおります。

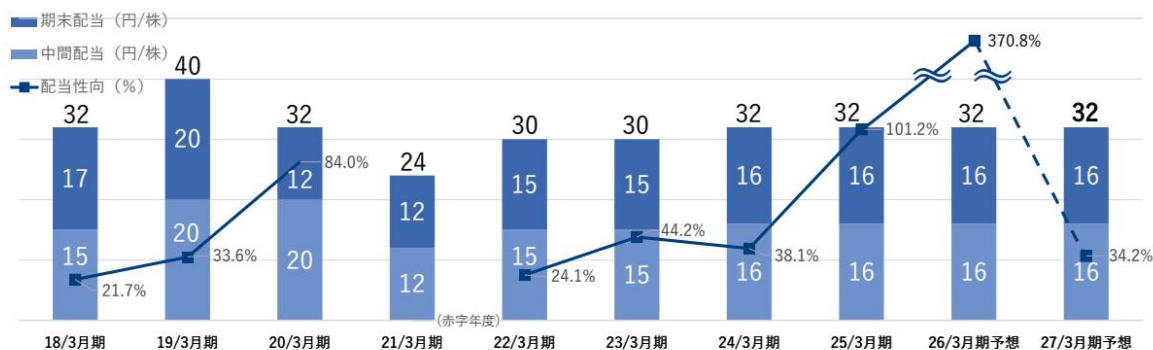
ベーシックマテリアルズは、ポリオレフィンの価格改定時期ズレ等により売買差悪化も、在庫評価損益の改善、酸化エチレン及びエチレングリコール類製造設備における減損損失の解消等により赤字縮小を見込みます。

産業ガス事業は、価格マネジメント及び生産性向上活動等により増益を見込んでおります。

## 配当予想



- 当社は、企業価値の向上を通して株主価値の向上を図ることを株主還元の基本方針としております。
- 配当につきましては、今後の事業展開の原資である内部留保の充実を考慮しつつ、「新中期経営計画2029」において、配当性向35%を目安とし、利益成長に応じて配当増加を図ることを目標としております。
- 26/3月期の1株当たり期末配当金予想額は前回発表予想の通り16円として、5月20日の取締役会において決議予定です。
- 27/3月期の配当予想につきましては、第2四半期末及び期末の1株当たり配当金を、26/3月期の期末配当と同額の16円といたします。これにより、27/3月期における1株当たり年間配当予想は32円となります。



21 | 三菱ケミカルグループ株式会社

配当予想についてお話しします。

2026年3月期の1株当たり期末配当金予想額は前回公表予想の通り16円で、5月20日の取締役会において決議予定です。2027年3月期の配当予想につきましては、第二四半期末および期末の1株あたり配当金を2026年3月期の期末配当と同額の16円とします。これにより、2027年3月期における1株当たり年間配当予想は32円となります。

以上で私からの説明を終わります。

## 質疑応答要旨

---

**渡部 [Q]：**中東情勢の影響として挙げられている 180 億円のマイナス影響についてお伺いします。この中には、原料市況の上昇による在庫評価益などはネットして含まれているのでしょうか。また直接的な影響として、現在の SAMAC の状況に加え、タイの原料や国内ナフサの動向が報道されています。海外の原料や副資材を含めた調達面、および SAMAC や在庫評価への影響など、中東情勢の影響についてもう少し詳しくご説明ください。

**木田 [A]：**180 億円のマイナス影響についてご説明いたします。まず、ご質問の在庫受払等による影響については、一部含まれております。しかしながら、当社の見立てとして、ナフサの調達コストが直接的に大きく上昇し、それを価格転嫁できずに被る影響はあまり想定しておりません。また、ナフサの調達自体が著しく困難になるといった切迫した状況でもないと考えております。

今回見込んでいるマイナス影響の主因は、サプライチェーンに起因する間接的な影響です。具体的には、お客様側で当社納入品以外の部材が不足することで、結果として当社の納入数量が減少する影響や、当社においても主原料以外の外部調達品（副資材など）の供給が一部滞る懸念がある製品群があり、こうしたサプライチェーン全体への波及影響を大きく見積もっております。

セグメント別で見ますと、この 180 億円のうち半分以上の約 100 億円を MMA のネガティブ影響として見込んでおります。ご存じの通り、当社の主要生産拠点の一つ（SAMAC）が中東地域に所在しているため、当該拠点に関連するサプライチェーン上の問題が最も大きく影響すると想定しております。

**渡部 [Q]：**確認ですが、仮に中東情勢が 9 月頃まで継続した場合、MMA で 100 億円程度のマイナス影響が見込まれるという前提ですね。それ以外の影響については今後の状況次第と理解いたしました。もう一点、基礎化学品の上期見通しについて伺います。現在のナフサ価格の前提が 6 万円強となっているため、この表上では上期が赤字見通しとなっています。しかし、足元のナフサ市況を踏まえると、実際には受払差などにより相当上振れるのではないかと推測しておりますが、この点はいかがでしょうか。

**木田 [A]：**おっしゃる通り、例えば 4 月単月のようにナフサ価格が上昇している局面においては、月次ベースで受払差のプラスが発生いたします。しかしながら、最終的に価格が元の水準に落ち着く局面において、そのプラス影響は剥落してまいります。そのため通期ベースで見た場合、受払

差によるプラス・マイナスは期中で相殺されるか、あるいは一部が来期に持ち越される程度になると考えております。したがって、基礎化学品において受払差による大きなプラス影響が残ることは、現時点では見込んでおりません。

**宮本 [Q]：**資料 27 ページについて伺います。新年度のスペシャリティマテリアルズの増減要因として、合計 451 億円の増益を見込んでおられます。ここから減損分（303 億円）を除いた実質 150 億円程度の増益について、詳細な内容を教えてください。特にコンポジット & シェイプスの増益幅が大きく、ロボタクシー向けの出荷が本格化するものと見ています。ロボタクシー向けの出荷台数は 3～4 倍程度に増えるイメージでしょうか。台数の前提や固定費への影響など、コンポジット & シェイプスを中心にスペシャリティ全体の増益要因をご説明ください。

**木田 [A]：**資料の記載に加えて、各セグメントの実質的な増益要因について補足いたします。

コンポジット & シェイプス ロボタクシー向けについては契約上明確な台数はお答えできませんが、お示しいただいたイメージにほぼ合致しております。昨年度後半から月次台数が増加しており、今年度は月産台数が 3 倍～4 倍規模に拡大することで、本格的な出荷による先行投資の収益化を見込んでおります。また、イタリアの CPC 社以外でも不採算拠点を集約するなどの再編を進めております。その中で、官民間問わずドローンや航空宇宙向けの引き合いも増加しており、これらが徐々に具体化・収益化していく効果も見込んでおります。

フィルムズ & パフォーマンスマテリアルズ 今回 303 億円の減損を計上したため、来期はこの影響が解消することが最大の要因です。事業面でのプラスアルファとしては、ドイツにおけるポリエステル向け新ラインの稼働（5 月～）や、MLCC 向けでのアジア出荷開始（新規顧客・認証待ち顧客向け）、そして着実に販売が伸びているソアノールの伸長を見込んでおります。

情報電子 合成石英やフォトレジスト（リソマックス等）に対する新規投資の効果が本格化するのはまだ先になります。しかし現行設備においても合成石英の引き合いが非常に強いため、能力の範囲内でフルに販売していく計画です。既存の半導体関連商材については引き続き強い需要を実感しております。

まとめますと、今年度はコンポジット、ソアノール、半導体関連の 3 商材が、数量面で相当の成長を牽引する見立てとなっております。次世代製品の GaN が本格的に収益貢献するのは来年以降となります。

**宮本 [Q]：** 補足として、中東情勢の影響に関して伺います。スペシャリティでは約 60 億円のマイナス影響を見込んでいるとのことですが、この主な内訳は原料高に対する価格転嫁の不足等でしょうか。どの製品で価格転嫁が難しいのか、あるいは不足感のある材料があるのかなど、影響の詳細を補足いただけますでしょうか。

**木田 [A]：** 現時点において、当社の原料不足により生産に明確な支障が出ているといった顕在化した問題はございません。今回見込んでいるスペシャリティへのマイナス影響（約 60 億円）の大部分は、価格転嫁による回収不足ではありません。先ほどの全社影響でも申し上げた通り、お客様側で（当社以外の）原料・部材が不足して稼働率が低下し、結果として当社の納入数量が減少するという、サプライチェーンに起因する間接的な影響を見込んだものです。したがって、価格転嫁の遅れによるマイナス影響はここには含めておりません。

**岡崎 [Q]：** 中東情勢に関して、仮に 9 月まで現状が続いた場合、ベーシックマテリアルズで約 20 億円のマイナス要因を見込んでいるとのことでした。この内訳や考え方を教えてください。もともと紛争前、エチレンの稼働率は 90%程度だったと認識していますが、上期はどのような稼働状況になり得るのか、誘導品等への影響も含めてご説明いただけますでしょうか。

**木田 [A]：** まずクラッカーの稼働状況についてですが、国内全体の一般的な稼働率が 75%程度で推移する中、当社はお客様に恵まれ、比較的高い水準を維持できております。茨城事業所は 5 月 9 日から定修に入っておりますが、岡山事業所では現在も 80%程度の稼働を維持しています。定修明けの状況は予断を許しませんが、現時点でクラッカーの稼働率がここから著しく低下する蓋然性はあまり高くないと見ております。

ベーシックマテリアルズにおけるマイナス 20 億円の影響につきましては、一部の原料不足による小規模な減産や、お客様側のサプライチェーン懸念を織り込んだものです。これらに対しては、輸送ルートの変更や調達先の多様化といった対策をすでに行っているため、現時点では「大幅な減産は見込んでいない」というのが正確なご説明となります。ただ、先行き不透明な部分は残るため、引き続き注意深く注視してまいります。

**岡崎 [Q]：**つまり、マイナス影響の金額としては大きくないものの、主に小規模な減産リスクを反映したものであり、定修の影響等も含めると、期初の稼働想定から大きく変わるわけではないという理解でよろしいでしょうか。

**木田 [A]：**そのご認識の通りです。一定の減産リスクは想定しつつも、現状の想定から大きく崩れる状況にはないと見ております。

**岡崎 [Q]：**先ほどの質問とも関連しますが、現状の高いナフサ価格が仮に9月末まで継続した場合、この減産影響とは別に、上期において一定の在庫受払差（評価益）が発生するという理解でよろしいでしょうか。

**木田 [A]：**ナフサ価格が現在のように上昇を続ければ、上期において一定の受払差（プラス影響）が発生いたします。ただし、価格が高い状態であっても一定水準で横ばいに落ち着けばプラスは出なくなりますし、下降局面に転じれば逆の影響（マイナス影響）が生じます。短期的には受払差の動向を注視する必要がありますが、平準化して通期で見れば、結果的に大きな差異（利益の上振れ）には繋がらないと見ております。

**大村 [Q]：**マテリアルズ・アンド・ポリマーズについて、3Q から 4Q にかけての動きを確認させてください。3月以降、ナフサ価格はスポットベースで大幅に上昇しておりますが、国産ナフサの換算ベースでは、それほど上昇していないと認識しております。その影響が3月の1カ月間にどのように生じたのでしょうか。また、在庫水準が通常よりも低かったと考えておりますが、その点が数値にどのように影響しているのか、ご説明ください。加えて、上期予想に関して、1Q から 2Q にかけてどのように回復していくのか、現時点でお考えがあればご説明いただけますでしょうか。

**木田 [A]：**石化について、特に 3Q から 4Q にかけての動きは、分かりづらいと認識しております。この中にはエチレンオキサイドの減損 52 億円が含まれており、データを見る上で一つの攪乱要因となっております。概略として、25 年度に入る部分では、営業利益にマイナス 10 億円程度の影響があったと見ております。稼働率の低下による影響は、通期で見るとそれほど大きくありませんが、期末にナフサ価格が上昇した影響もあります。25 年度については、今申し上げたとおりです。

26 年度上期、特に四半期ごとの見通しについては、正直に申し上げて、お答えしにくい状況です。例えば、4 月の月次のみを見れば、極めて良好な数値となります。これは、ナフサの受払差に

よる大きな差益が発生するためです。ただし、これがいつまで続くかは、終わってみなければ分からない部分もあります。1Q から 2Q にかけて具体的にどのように推移するのか、詳細な見通しを立てることは難しく、具体的な数値も残念ながら持ち合わせておりません。

**大村 [Q]：**4 月の月次のみを見れば、計算上は相当の利益が発生している状況という理解でよろしいでしょうか。

**木田 [A]：**おっしゃる通り、純粋な受払差のみを見れば、4 月には大きなプラスが発生しております。

**大村 [Q]：**その大きなプラスは、通常よりも価格転嫁を早期に進められた結果として発生している、という理解でよろしいでしょうか。

**木田 [A]：**先ほど申し上げた利益は、あくまで在庫の「受払差」によるものです。

一方で、ご指摘の価格転嫁についても一部のお客様と協議を進めております。石化製品の価格決定は、慣例として「前四半期（前 Q）の原料価格を参照するフォーミュラ」が多く用いられております。しかし現在の原料高騰局面において、当四半期に前 Q の安い基準価格で製品を納入し続けると、採算が悪化し生産を維持できなくなる恐れがあります。そのため、そうした事態を回避すべく、お客様との協議を通じて「前月価格を参照する」形へ変更するなど、価格転嫁のタイムラグを短縮していただくようお願いしている段階です。

**仲田 [Q]：**石化におけるナフサの受払差によって大きな利益が発生している点は理解いたしました。一方で、ポリオレフィンなども含めた一貫事業全体として見た場合、4 月は受払差のプラスがスプレッドの悪化を上回り、トータルとしても大きな利益が発生しているという理解でよろしいでしょうか。

**木田 [A]：**4 月の月次決算につきましては、ゴールデンウィークを挟んだこともあり、現時点ではまだ完全に締まっておりません。事業側からの定性的な報告によれば、4 月は受払差によるプラス影響が大きく寄与していることはほぼ確実と見ております。しかし、事業全体としてトータルで

どの程度の利益になっているのか、またその内訳が「受払差によるもの」なのか「実質的なスプレッドを確保できたことによるもの」なのかについては、最終的な数値が確定した後に分析する必要があります。その分析結果を踏まえて、5月以降の営業対応などを検討していく方針です。

**仲田 [Q]：**先ほど、価格決定において前Q参照から前月参照へ変更するなど、タイムラグの短縮に向けてお客様と協議しているとお話がありました。これはどの程度の時間軸で受け入れていただけると見ているのでしょうか。石化事業に加え、MMA事業においても以前から価格決定方法の変更を進めていたと認識しておりますが、今回の環境変化を機に一気に進展する見込みでしょうか。

**木田 [A]：**現時点ではまだ見通せない部分もございますが、お客様との契約形態によって進捗が異なります。まず、出荷の都度価格交渉を行っている「都度決め」のお客様に対しては条件変更をお願いしており、比較的理解をいただけているケースが多いと見ております。一方で、石化等の「フォーミュラ」を適用しているお客様に対しては、現在営業担当が個別に協議を進めている段階です。現時点で、何割のお客様に、あるいは売上ベースでどの程度受け入れていただけているかについては、まだ明確な数字としてお答えできる段階にはございません。

**渡部 [Q]：**25年度の業績を振り返りますと、期初計画に対して約250億円の未達となりました。この要因について、ソアノールやエチレンオキサイド、エチレングリコール等の減損が計約350億円あった一方で、ガスのプラス影響が40～50億円あったという理解でよろしいでしょうか。また、資料19ページの規律ある事業運営の3原則の中で、資産最適化等によるプラス350億円の増益要因が示されています。このうちネクストステージ支援プログラムによる効果が約150億円あると推測しておりますが、残りの200億円にはどのような要素が含まれているのでしょうか。

**木田 [A]：**まず、25年度の業績の振り返りにについてお答えいたします。ご認識の通り、当期はソアノールで303億円、エチレンオキサイドやエチレングリコール等で52億円、合計355億円の減損を計上しております。この減損影響を除いた実質的なベースで期初ガイダンスと比較しますと、以下ようになります。

・ケミカルズ事業：コア営業利益243億円＋減損分＝実質約598億円（ガイダンス610億円に肉薄）

・スペシャリティマテリアルズ：コア営業利益 323 億円＋減損分＝実質約 626 億円（ガイダンス 650 億円のレンジ内）

未達要因の大部分は減損によるものであり、実力値としては計画に近い水準まで到達しておりました。これは、各事業での価格転嫁の取り組みや固定費削減の積み重ねが定着し、効果として表れてきた結果であると、財務を預かる立場としても実感しております。

次に、次期の増益要因である「350 億円」の内訳についてご説明いたします。概略としては以下の 3 点で構成されております。

・人員体制見直しの効果（ネクストステージ支援プログラム等）：ご推測いただいた金額よりは若干保守的ですが、100 億円を少し上回る規模

・各事業におけるコスト削減の積み上げ：生産拠点の集約化、固定費・変動費の削減、原単位の改善などにより、100 億円強

・物流・購買関連の費用削減：個別に購入・輸送していたものを一箇所に集約するなどの取り組みにより、数十億円規模

詳細な数値を申し上げることは難しいものの、概ねこのような内訳構成となっております。

**宮本 [Q]：**MMA 事業について伺います。新年度のベースケースでは市況の緩やかな改善を見込んでいるとのことですが、どの程度の市況、および稼働率や需要動向を前提とされているのでしょうか。また先ほど、中東情勢の影響として「MMA で 100 億円程度の下振れリスク」を見込んでいるとのこと説明がありました。一方で、足元の MMA 市況は 2,000 ドルを超える高水準にあり、メタノール等の原料高を考慮しても、マージンの面ではプラスの影響もあると考えております。この 100 億円の下振れリスクには、どのようなマージン前提が含まれているのでしょうか。

**木田 [A]：**まず MMA の市況前提についてですが、紛争前の時点では、今年度は 1,400 ドルを若干下回る程度の市況になると想定しておりました。一時期、中国市況が 1,100 ドル台まで落ち込みましたが、同業他社の操業状況やコスト水準を踏まえると、一定程度は回復し、スプレッドも採算確保のラインまで戻ると見ておりました。一方、足元の状況は、東南アジア市況で 2,000 ドル程度のインデックスとなっております。ナフサとのスプレッドも 1,000 ドル弱と高水準にあるため、単純に見ればスプレッドは拡大していると言えます。ただ、中国の実勢価格はより厳しい水準にあるなど、全体としての市況は非常に見通しづらい状況です。

その上で、ご質問の「100 億円のマイナス要因」についてですが、これはスプレッドの悪化ではなく、主に「数量」の減少影響を見込んだものです。特に、中東拠点（SAMAC）で生産し出荷することが紛争前と比べて相当に困難となる可能性を厳しく見ております。現状が継続した場合の出荷数量の減少要因を重く見て 100 億円と試算しており、ここにはスプレッド変動による影響はあまり含めておりません。

**宮本 [Q]：** 承知いたしました。仮に足元の状況が続いた場合、中東拠点での減産により 100 億円程度のマイナス要因が発生する一方で、現在の市況水準が維持されれば、マージン面では当初の前提（1,400 ドル弱）を上回って着地するプラスの可能性もある、という理解でよろしいでしょうか。

**木田 [A]：** そのマージン面のプラス効果につきましても、現時点では非常に見通しづらい状況です。例えば 4 月単月の業績で見れば、MMA は若干の黒字になると見ております。しかしながら、地域ごとの価格差や物流制約など様々な要因が複雑に絡み合っているため、全体としての収益影響を見極めるにはなお時間を要すると考えております。

[了]